



五島先生から、薬にかかわるお話をさきました。わかり易く参考になりました。

今年も十一月二十七日に村国会館で「歳末座談会」を開催しました。五島医院の五島先生から「ステキに老いるために」という講演で「薬について」のお話をうかがいました。お医者さんのお話で「難しいかな・・・」と思っていたのですが、とても分かりやすく、これから注意しなくてはいけないことなどを知りました。先生から「毎日薬を飲んでいるけど、何でもか薬が残る。不思議やな・・・」という患者さんのお話を聞いた時には、皆さんお互いの顔を見合わせて大笑いしました。質問もたくさん出て、皆さんの朝早くから起きて健康にも留意した生活が垣間見えるようでした。講演会は地域のお医者さんが身近に感じられるひと時でした。

その次は、地域で相談活動をされているカーサレスパートの職員さん

毎年、十一月の最終日曜日に各務原市社会福祉協議会の各務支部が開催する「歳末座談会」には年々参加者が増え、今年は百二十名の方々が参加されました。地域の元気な方々の「あれ！やっとかめやね。マメや

による「きよしのズンドコ節体操」をしました。昨年もしましたが、すっかり忘れていました。でも簡単な体操なので皆さんも歌いながら体を動かされていました。一人でやっているとは恥ずかしいのですが大勢だと楽しいのは不思議ですね。

そして昨年好評だった「茂益亭蝶代」さんによる落語。大笑いしたのに、今思い出そうとしても思い出せない話でした。ほんのひと時でしたが、お腹の底から笑い、大きな声を出すと気持ちすがすっきりすることを体験しました。



社協支部
だより

村国の郷

第34号

編集・発行
各務原市社会福祉協議会
各務連合支部



カーサレスパートさんの指導できよしのズンドコ節体操をしました。始める前の説明をきいている様子です。

った？」という会話があちこちで聞かれ、準備をした私たちもうれしくなる場面がいくつもありました。

来年も皆さんの笑顔に出会えるような「歳末座談会」を考えてゆきたいと思っています。ご協力をありがとうございます。

ぜひお元気で、また来年もご参加ください。



支部長・福祉推進員感想

各務連合支部の皆様へ感謝

社会福祉協議会各務連合支部
支部長 玉置 光治

各務連合支部の皆様には、支部活動及び運営について格段のご配慮を賜り厚くお礼を申し上げます。年間の行事計画を作成し、四月以降その遂行につとめてまいりました。たとえば、地域包括支援センターから講師を招き、自治会長、近隣ケア、民生児童委員の皆様を対象に介護講習会、福祉講演会等開催しました。自治会長様はじめ、各自治会役員の皆様には多大なご尽力を頂き、感謝申し上げます。地域の皆様の温かいご支援とご協力、この一年間本当に有難うございました。最後に民生委員の皆様方には、感謝申し上げます。

社会福祉協議会活動に参加して

各務連合支部福祉推進員
岡崎 圭祐

各務地区福祉推進員を引き受けて一年、最初は民生委員とは推進とは何をするのか判らないままスタートしてしまい不安でいっぱいでした。しかし地域ふれあい広場、福祉懇談会、ボランティア講座等に参加していくうちに人と人のつながりの大切さ必要性を知りました。鵜沼地区の出身の私は各務地区の事は判らない事ばかりでしたが特に、ふれあい広場に通して多くの皆さんの話しを聞き少しづつ理解出来る様になり自然豊かな町、心温かい人の集まり、又古き良き伝統ある地域に生活出来ている事に感謝しております。しかしながら私の担当している地域では65才以上の方が5割を超える超高齢化社会になっており5年後10年後を考えると不安になります。行政の目も細かい所までは行き届かないため、地域の住民同士が理解し助け合える環境を作り上げていくことが大切であると思います。来年度も社協の行事を通して、気楽に又楽しめる場所にする為に皆さんの多数の御意見をいただきたいと思います。

私の好きな言葉

「少しのお金とたくさんの友達がいたら人生勝ちかもね」

一年を振り返って

各務連合支部福祉推進員
澤井 明美

地域ふれあい広場ではたくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。「〇〇ちゃん何年生になったの。」「五年生だよ。」「もうそんなに。大きくなったねえ。来年会う時はおばさんより身長高いかもね。」「一年に一度会う子との会話です。又、ヨチヨチ歩きの子を連れて参加してください。お母さん、お父さんもいらしゃいます。」「バタバタでごめんなさいね。」「と声をかけると「ストロ―でこんなことができるんですね。」「とストロ―で作った飛行機を子供といっしょに楽しそうに飛ばしているお母さんがみえたり、年配の方は「手の運動だね。」「折り紙で動くカラスができるんだ。」「と感心してくださったりします。

地域のふれあい広場ではいつもバタバタ、ザワザワの開催です。(参加して下さる方ゴメンナサイ。)地域のつながりが希薄になりつつある最近、このような行事のなかで、ご近所のふれあいを感じ楽しんでくださればと思っています。

「うちの隣に住んでるの〇〇ちゃん、あんたかネエ。大きいネエ」なんて会話が聞こえてくると嬉しく思う今日この頃です。

地域ふれあい広場

高齢化率二十七％。各務原市でもっとも高い地区である社協各務連合支部では、ふれあい、語らい、地域の人の顔の見える活動を目指し、自治会長、近隣ケア、育成成長など、地区の役員さんに協力していただき「地域ふれあい広場」を毎月一回、各務地区公民館で開催しました。

子どもたちは、ストロートンボとリングライダー（紙とストローで作った竹とんぼと紙飛行機）の工作、大人は、和紙で作った竹とんぼと「携帯用つまようじ入れ」を作成しました。全員で行ったビンゴゲームは、とても盛り上がり、ワイワイガヤガヤ楽しいひと時となりました。ペンシルバリンで作ったお花や剣、犬などを近隣ケア、シルバーの方などにプレゼントしました。

地域ふれあい広場に行くと

各務小五年 足立 美悠

八月二十七日に、池ばた公民館で行った、地域ふれあい広場に行きました。いろいろな遊びがありました。一番楽しかったのは血回しとビンゴゲームです。血回しでは、わたしは、最初は一つだけやって上になくてキャッチしたりしました。やっていたら左手でもできるようになったので両手で回してみたらできました。とてもうれしかったです。ビンゴゲームでは、最初のほうは、まったくあけられなかったけど、だんだん連ができてきたので、あけられるようになったので、あけるのがたいへんでした。私は、このことが一番楽しかったけど、他のものも楽しかったです。また来年も行きたいです。



地域ふれあい広場に参加して

各務小五年 足立 彩夏

八月二十七日に池ばた公民館で行われた地域ふれあい広場に参加しました。私が一番楽しかったのは、血回しやあめのつかみどりをやったことです。血回しは、最初はぜんぜんできなかったけど、最後、両手で回したり、目いっぱい回して、上に投げて、ぼつでキャッチしたりすることもできました。あめのつかみどりは、あめやソフトキャンディがたくさんつかめてよかったです。他にも、ビンゴやバルーンアート、紙とストローでつくるおもちゃなど、楽しいことがたくさんありました。



ふれあい広場教室

この前、ふれあい広場教室がありました。私は、少しおくれで、場所に着いたころにはもう、みんな竹とんぼみたいな物を作っていました。それを急いで作った後、血まわしとバルーンをやりました。私は、血まわしをやっている時に、友達から技を教えてもらいました。最初は、つまんできなくて、たくさん失敗したけれど、なんとかできるのようになりました。とてもうれしかったです。

最後に、ビンゴをやりました。私は最初ぜんぜんあかなくて、「やりたくない」と思っていたけれど、中間になってたくさん開きました。最初のほうに、けいひんがもらえるので、よくいにつれて、たまりませんでした。とても楽しくて、おもしろかったです。



ふれあい井戸端会議にご参加ありがとうございます！

今年度から「ふれあい広場」の後の時間を使って、集まっていた方々と民生委員の「井戸端会議」を行いました。

地域の方々の生の声を聴きながら、地域の福祉について考えられたらと思って発足しました。

このように今後も「身近な話題を担当民生委員とともに話し合える場」を作っていきたいと思います。

また、皆様のご意見はいつでも民生委員や社会福祉協議会にお伝えください。今後の各務連合支部の活動の参考にさせていただきます。



地域の絆を深めることができました

民生児童委員 長縄 光洋

今年度の社会福祉協議会の活動に自治会役員、近隣ケア子供会・シニア等々、多くの方々に参加、協力していただきありがとうございました。

ふれあい広場では、子供たちが自分で作ったストロートンボ、リングライダーを飛ばして喜ぶ姿や血回しが上手にできるようになったときの得意げな顔を見たときには、やってよかったと思いました。また、近隣ケア、シニア、自治会の方々が童心に返って子供たちと一緒に活動して、楽しかったことで大いに盛り上がり、ふれあうことができました。

「災害時一人も見逃さない」を目指して、高齢者（障がい者）福祉台帳の作成に取り組んできました。自治会役員の方の骨折りと自治会員の皆様の理解と協力で多数の方に提出していただきました。今後の取組みが大変重要です。提出された台帳をもとに、防災対策避難対策・援護対策について自治会役員、民生委員、近隣ケア係り等で検討しなければなりません。その際は自治会員の皆様の協力をお願いします。



ボランティア養成講座



六月二十五日、第二回ボランティア養成講座を開催しました。内容は認知症サポーター養成講座でした。

地域包括支援センターカーサレスベート様の講話を聞いてほとんどの方が「感銘した」と言ってくれました。参加されました方のご意見を聞いて見ると、又機会があればもう一度「講話を聞きたい」とのお話でした。

十二月十日、第二回ボランティア講座内容は、「私にできるボランティア」ということで、岐阜県郡上八幡で出生、大学を卒業後、福祉関係の仕事に従事されました「渡辺哲雄」先生を講師に招き、自らの体験話を面白おかしく聞き、時には



涙しながら話を聞いておりました。又ほとんどの方が「感動した」と言ってくれました。一人でも多くの方にボランティア養成講座を受けて頂く事を願っております。第二回目のボランティア養成講座を開催したところ大変に反響が良く、第三回ボランティア養成講座も第二回目と同様、地域包括支援センターカーサレスベートの講話で「認知症」についてお話しして頂きます。来年度も引き続き、ボランティア養成講座を企画致しますので一人でも多くの方に参加して頂き、少しでも皆様方のお役に立てる様努めさせて頂きますので宜しくお願い申し上げます。

民生委員・児童委員紹介

< 民生委員・児童委員 >

氏名	電話番号	担当自治会
白木 充	384-0938	川崎団地、須衛第一・第二
足立 信行	384-4580	須衛第三、会本
長縄 節子	384-4798	東組北
鈴木由里子	384-1929	山の前
岡崎 圭祐	385-2233	おがせ町第一
五島 和彦	384-0360	南北島、西北島、宮の前
澤井 幸彦	385-1088	おがせ町第三、城の屋敷
長谷部忠史	384-5029	おがせ町第四・第五
長縄 光洋	384-0575	各務西町第一
白木登美子	370-6267	船山西・東、各務西町第二

< 主任児童委員 >

篠田恵理子	370-3567	各務小・中央小(一部)・八木山小校区
-------	----------	--------------------

台帳づくりは新しい絆づくり

鵜沼中地区民生委員児童委員協議会
会長 白木 充

人は何百万年も前に『仲間との絆の強さ』を武器として、誕生し生き抜いて来た生物だと言われています。

戦争前は各務校区も絆の強い所でした。お互いに近所のことを何でも知っており、隣近所に対してプライバシーなどほとんどありませんが、集落（常会）全体が家族のように助け合って生きていました。

戦争に負けた後、外国から新しい考え方が入ってきたときに、家族や集落の古いしきたりや行事はきちんと吟味されずに次々と捨てられていきました。そうして失われたものの一つに、『家族や地域の絆』も含まれるのではないのでしょうか。

それでも、各務小校区は、『子供歌舞伎』を絶やさず続けてきたことや、会本の今も続く『青年団活動』などのような取り組みによって、地域の絆が強く残されています。

しかし、地域や家族の絆が弱くなるのは大きな流れであり、自治会の役員が回ってきそうになると自治会から脱退する人が出てきたり、校区や自治会や集落の行事への不参加を決めたり、昔からの行事の開催を中止したりすることが今も続いています。

台帳作りは、ただの名簿作りではありません。何か大変なこと（孤独死とか災害時の安否確認や避難誘導の遅れ）が起きたときに、『そんな助けが必要な人』がいたとは知らなかったでは本当に情けないことです。

一昔前のような、『プライバシーは無視だが絆は強い常会』を復活させることはできません。しかし、『助けが必要な人』がいるのに、知らなかったという集落（常会）もなくす必要があります。

集落（常会）の中の、何かあった時に「助けが欲しい」人を本人や家族の了解を得て名簿としてまとめておけば、様々なときに役立つはず。普段は、名簿を基に、民生委員・近隣ケア・自治会役員などが目配りや気配りをし、災害が起きたときなどは、名簿を基に『安否確認や避難誘導をする』ことができれば見逃しも起きません。

社会福祉協議会各務連合支部がここ数年取り組みを続けている名簿作りの取り組みは、災害時には大いに役立ちますが、それだけでなく、集落（常会）の中に、新しい形で絆を作り、そこに暮らす住民の皆さんが互いに助け合って、安心した暮らしを営まれるようにと願っての取り組みなのです。

高齢者（障がい者）福祉（援護）台帳

家族を代表する方のお名前	家族の人数	住所	電話番号
		各務原市	

台帳登録者（凡そを記入し、該当する欄に○印を付けてください）

項目	お名前と年齢				
		才	才	才	才
①	75歳以上の高齢者				
②	70歳以上の高齢者のみの世帯				
③	65歳以上の独居の高齢者				
④	障がいをお持ちの方				
⑤	昼間、70歳以上の高齢者のみ				
⑥	自力避難ができる				
⑦	自力避難ができない				
⑧	遠く離れた場所に避難させたくない				
⑨	避難先へ携行必須の物品がある				

⑥から⑨についての具体的な内容については、裏面に記入してください。

非常連絡先（大規模災害時などには電話がつかないときがあります）

連絡先	お名前	続柄	携帯や勤務先の電話番号
連絡先			
①			
連絡先			
②			

家族構成

名	性別	年齢	備 考

住所があるなしにかかわらず、現在一緒に住んでいる家族を記入してください。
備考欄記入事項については、裏面の記入例を参考にしてください。

この台帳に記載した事項は、地域の福祉活動や災害時の援護活動の立案・実行に限りて利用することを認めます。
平成 年 月 日
家族代表者 印